



共栄小だより

〈年度の重点〉 「主体的に学び、共に考え、やり抜く子どもの育成」

旭川市立共栄小学校 学校通信 令和5年度 第3号 令和5年5月31日



運動会を通して感じたこと

旭川市立共栄小学校長 鎌田 昌記

過日、37回目を数える本校の運動会が、青空の下で開催されました。今年は1～3年生、そして4～6年生の2部制、午前中開催としました。個人種目として全学年、全児童が走る徒競走、紅白に分かれての学年別の団体種目と選抜リレーを行いました。お子様が一生懸命競技に取り組む姿を目の当たりにされ、ご家族の皆様にもきっとご満足いただけたのではないかと自負しております。

昨年までの3年間は、コロナ感染症対策のため、運動会そのものを延期したり、2学年ごとの3部制開催としたり、ご家族の観覧者数を制限させていただいたり、大きな制約の中での実施を余儀なくされました。しかし今年はプログラムにも比較的余裕があり、子どもたち自身も楽しみながら競技に取り組み、また、ご家族の皆様にもゆっくりとご観覧いただけたのではないかと考えています。

全力で走る懸命な表情、ゴール後にお互いをたたえ合う姿、大声で応援し拍手する様子、ベストタイムを打ち出しクラス皆で小躍りする姿、そして大勢の子どもたちの楽しそうな笑顔や笑い声等々。心温まり、見ているこちらが笑顔になる素敵な場面が、グラウンドのそこかしこで展開されました。

この運動会を通して私は、

- 物事に懸命に取り組むこと
- 人と力を合わせ何かを成し遂げようと努力すること
- 結果だけではなく取組の過程を大切にすること
- 他の人の頑張りを認め称賛すること

などの大切さを、子どもたちの姿から感じ、改めて学ぶことができました。

高学年の子どもたちの運動会の反省を見ますと、「練習からみんなで一生懸命取り組んで、本番ではタスキをしっかりとつなぐことができた」「負けたけれど本番ではベストタイムを出せた」「小学校最後の運動会は盛り上がって楽しかった」など、満足感にあふれたものとなったことが伺え、大変嬉しく思っています。

ご家庭におかれましては、運動会からの帰宅後、頑張りを褒めたたえたり、あるいは、思うような結果を出せなかったと悔しがっているお子さんには励ましの言葉をかけたりして下さったことと思います。

この運動会に限らず、これからも日常のお子様とのコミュニケーションを大切にしながら、良い部分は大いに認め励まし、また、時には叱咤激励しながら、お子様の確かな成長につなげていただければと思います。

1～4年生の各学年の遠足が5月29日、30日にかけて実施されました。

子どもたちの様子を見に現地へ行った時のこと。敷物を広げ楽しそうに昼食の真っ最中、私の姿を見て、多くの子どもたちが声をかけたり手を振ったりしてくれます。

そんな中、

「このおにぎり自分でにぎってきました！」

「この卵焼、自分で焼いたんですよ、見てください！」

誇らしげに自作のお弁当を見せてくれる子が何人かいました。

きっと、友達と一緒に楽しく食べる場面を想像しながら、朝一生懸命料理をしたんだろうな、と
思い、なんだか心温まりました。

